

各 位 様

車椅子バスケットボールに関するご挨拶

昨年10月、「はがくれ車椅子バスケットボール大会」は第5回大会をもって終了いたしました。終了に追い込まれた最大の原因は運営資金の確保が難しくなってきたことです。障がい者スポーツをボランティアグループで運営していくという特異な形での運営の限界を感じた所でした。

しかし、参加するチームや車椅子バスケットに関わる多くの方からの「存続」を望む声や、報道で終了することを知った方々からの「応援」のお気持ちが寄せられたことで、何とか立ち上げる事が出来ないかと模索をしておりました。

ただ、立ち上げるについて幾つかの課題がありました。一つは何といたっても継続的に運営資金を支援して頂ける協賛企業または団体が確保できるかといったこと。もう一つは、これまでの「はがくれ・・・」とは主旨を異にして、全く新しい形で運営するための組織編成ができるかといったこと。他にもいくつかの課題はありましたが、この二つの課題をクリアできないことには、再出発の可能性はありませんでした。

運営組織は思いのほか早く立ち上げることができましたが、最終的に踏み出すための資金確保については、なかなか進まず限界を再び感じていました。そんな時に、チャリティーコンサートのご提案や、九電生協様より「社会貢献活動資金」の提供の申し出があったこと、またバスケットボール関係の方からの応援等が、大きな原動力となって新たな出発の引き金を引かせて頂いたものと感謝いたしております。

ただ、今回の設立につきましても直前の5回大会と、それ以前の10回大会がどうしても絡んできます。しかし今回はそれらを引きずらない全く新しい形での出発です。最初の10回の大会は「故伊藤平太追悼はがくれ杯争奪車椅子バスケットボール大会」という位置づけをしておりましたが、ご遺族の方から「平太追悼大会は終わらせて欲しい」と言った旨のお話を受けたことが、大会を終了させた最大の要因でした。

その次の大会は、今回と同じく「立ち上げてほしい」と言った多くの声に応え、前の大会を引き継ぐ形で「はがくれ車椅子バスケットボール大会」として出発いたしました。そのために、大会主旨や運営方法などは全て前の大会を引き継ぐ形で進められました。しかし今回は、ご遺族のお気持ちや二度にわたって終了させてしまった経緯を考え「はがくれ大会」とは一線を画し、全く新しい大会として出発することにいたしました。

さて、「むつごろうCUP車椅子バスケットボール大会」を出発させるにあたり、車椅子バスケットボールを競技スポーツとして応援、サポートしていくための組織として、佐賀車椅子バスケット協会の立上をも合わせて企画致しました。

現在、佐賀県に存在する車椅子バスケットボールチームは、「むつごろうCUP車椅子バスケットボール大会」に参画している、「Hagakure Danger」と、ツインバスケットボールチームとしての「インクリース」、それに西九州大学にクラブチームが活動しているのみで、まだまだ選手層も薄く厳しい状態にあります。

協会ができて今すぐに何か活動ができるものでもありませんが、将来に渡って車椅子バスケットボール競技の振興に寄与することができればと考え、協会の設立準備委員会を立上りました。「むつごろうCUP車椅子バスケットボール大会」同様に、協会の確立に向けても皆様方のご支援をよろしくお願い致します。

なお、2月23日（月）午後7時より、佐賀市アイスクエアビル3階会議室におきまして、九電生協様からの活動資金贈呈式とコンサートの報告会、ならびに新組織メンバーの紹介を行いたいと思っております。

平成21年2月15日

むつごろうCUP車椅子バスケットボール実行委員会
委員長 船津正弘
佐賀車椅子バスケットボール協会設立準備委員会
委員長 福島龍一

添付書類

- 1、むつごろうCUP車椅子バスケットボール大会設立趣意書
- 2、佐賀車椅子バスケット協会設立準備委員会趣意書
- 3、むつごろうCUP車椅子バスケットボール大会組織票
- 4、チャリティーコンサートチラシ

問合せ先

佐賀市中央本町2番16号 福島龍一
(携帯電話 090-7456-2000)
(Eメール dragon@ric-f.jp)